

☆大会規定

- 1, 選手登録は、11名以上、25名以内とし、大会初日までは変更認める。
- 2, 出場選手は令和7年10月25日以前に連盟に登録され、指定の傷害保険に加入し選手登録証がある者に限る。
- 3, 登録選手及び登録されたチーム責任者・監督・コーチ・マネージャーのみベンチに入ることができる。
但し、監督コーチは各種登録証及び審査証を携帯しボーイズリーグ指導者ライセンスを取得してなければならない。
- 4, 組み合わせの若番号が1塁側ベンチ、後番号が3塁側ベンチに入る。
- 5, マネージャーは選手と同じ帽子を着用すること、監督背番号60・コーチ背番号50は選手と同じユニフォームを着用すること。
- 6, 試合開始予定時間の1時間前に球場に到着し、**役員・選手登録表3部、オーダー表5部、その他必要書類を本部に提出すること。**
- 7, 試合開始時間までにチームが到着していない時、審判は没収試合を宣言することができる。
- 8, 試合方式等
試合は1時間50分7回とし、1時間50分を超えて新しいイニングに入らない。
(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)。連盟の手引きP37参照
 - ①大会第1日目：7回終了後または、1時間50分経過後同点の場合は最終メンバー9人による抽選を行う。
 - ②大会第2日目以降：**7回終了時または、1時間50分経過後同点の場合はタイブレーク方式を実施する。**
決勝戦は7回1時間50分とし、7回終了後または、1時間50分経過後同点の場合はタイブレーク方式を実施する。
- 9, 4回終了時10点差、5回終了時7点差の場合はコールドゲームとする。
- 10, 降雨、日没等その他の理由により試合続行不可能となった場合、4回以降であればコールドゲームが成立、3回以内であればサスペンデットとし、次の試合日に再開する。
但し、4回以降同点の場合、最終回終了時に出場メンバー全員で抽選を行う。
- 11, 選手の投球数に関する制限は
 - ① 1日最大70球とし、連続する2日間で105球以内とする。
連続する2日間で70球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。
 - ② 大会中は1日70球投球後、翌日投球を休めば3日目70球の投球を可とする。
 - ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
 - ④ ボークは投球数にしない。
 - ⑤ 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。
 - ⑥ ダブルヘッターの場合で、2試合に登板した場合は、連続2日間投球したとする。
また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。
- 12, 攻守で監督及びコーチの指示・伝達は1試合で各2回の計4回を限度とする。
延長には入った場合は、1回の指示・伝達を認める。
(選手のケガや、選手交代などは回数をカウントしない。)
守備側の投手に対する指示・伝達が3回となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
内野手(捕手を含む)が、2人以上投手のところに行った時も1回に数える。
また、指示伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
- 13, 監督又はコーチが選手にアドバイスする時は、マウンド付近で行うこと。
- 14, チームの抗議権は監督のみにあり、監督不在の場合はコーチが代行する。
- 15, ヘルメットを1チーム7個同色のものを備えること
- 16, バット及びグローブ、スパイク等は連盟指定業者のものに限る。
- 17, 捕手は必ずユニフォームの下に、規定防具を試合及び練習を問わず着用すること。
- 18, グラウンドの都合で、大会トーナメント規定が別に制定された場合、それに従うこと。
- 19, 大会中の負傷については応急処置を行うが、それ以外の責任はもたない。
- 20, **その他本規定に定めのないものは、(公財)日本少年野球連盟の定めるところによる。**